JR 烏山線を基軸とした地域交流機会の拡大に向けた取り組み

～市民ワークショップとフットパス企画の成果を踏まえて～

足利工業大学 工学部 創生工学科 建築・社会基盤学系 福島二朗研究室 4 年
清水 亮（しみず りょう）

【概要】『烏寶線鉄道唱歌』の発掘・解明を端緒として、JR 烏山線を活用した地域交流機会の拡大に向けた検討を行うことを目的に、市民ワークショップ開催とフットパスの試行成果を整理・分析した。その結果、市民は“地域の魅力・誇り”としての地域資源の抽出過程において土地の記憶の覚醒と継承の共有が、また、フットパスによる『地域資源回遊マップ』の制作において、市外の参加者も含めた地域づくりへの関わりが可能となる新たな試みとしての取り組みが構築できた。
【地域貢献】本研究が企図した『地域資源回遊マップ』は、市民および市外からの参加者も含めた地域づくりに向けた取り組みの新しい形態の提案である。コンセプトを踏まえ、来訪機会拡大の可能性と、共通する課題が多い地方都市への応用も可能と考える。

１．はじめに

現在、わが国では、少子高齢化の進行と東京を中心とした大都市圏への過度の人口集中が恒常化し、大きな課題となっている。特に、若年層による人口の流動は、地方都市の財政基盤の弱体化をもたらすとともに、文化や伝統など地域の維持が困難な状況も顕在化している。栃木県の北東部に位置する那須烏山市も同様の課題を抱えた地方都市であり、その対応が急務と言える。本研究では、那須烏山市を含めた JR 烏山線沿線地域の地域活性化に向けた手法検討を目的に、発掘資料『烏寶線鉄道唱歌』の解明および分析を進めてきた。

本稿では、『烏寶線鉄道唱歌』に拘わるこれまでの研究成果を踏まえ、JR 烏山線を活用した地域交流機会の拡大に向けた検討を行うことを目的とする。具体的には、市民ワークショップおよびフットパス企画の試行を行い、その各々の成果を整理・分析する中で、地域交流機会の拡大に向けたプランニングの方向性とその効果について検討を行う。

２．『烏寶線鉄道唱歌』のこれまでの解明・分析

『烏寶線鉄道唱歌』は、大正 12 年に開業した現在の JR 烏山線が謳われた鉄道唱歌で、20 番までの歌詞で構成されている。本研究では、『烏寶線鉄道唱歌』の解明・分析として、往時における風光の復元や地域様態、地域の変容過程等の解明を進めてきた。一方、現在、地方都市のまちづくりにおいて多くの自治体が試行している手法の一つに“地域資源の活用”がある。そこで、前述の解明・分析とともに、地域資源の抽出も並行して実施した。まず唱歌から固有名詞を抽出したところ 59 あり、その内わが国の鉄道唱歌が大衆に迎え入れられた要素である“地理や歴史”“その土地の伝説や名物”等を“地域の魅力”“地域の誇り”と位置付け“地域資源”として抽出を行った。『烏寶線鉄道唱歌』の写しに“昭和 5 年作歌”と記載されていることから、当該地域の昭和 5 年当時の地域資源として 33 をリストアップした。

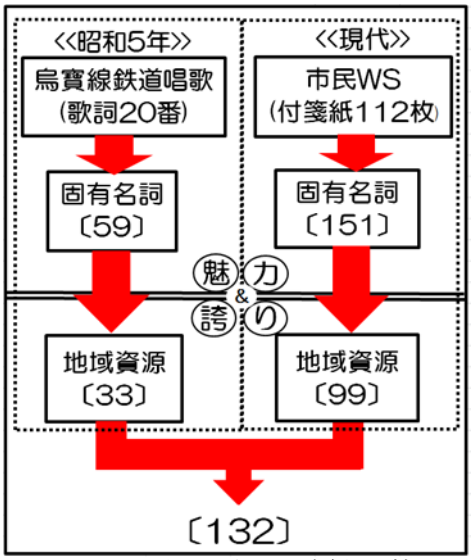

図１　昭和 5 年と現代の地域資源の抽出

３．JR 烏山線の活用に向けた取り組み

（1）市民ワークショップの企画・開催

JR 烏山線を活用した地域交流機会拡大の方向性を検討することを目的として、市民ワークショップ（以下、WS と略記）を 3 回企画・開催した。第 1 回では、市民に向けた『烏寶線鉄道唱歌』の周知・浸透を念頭に、前述の 33 の地域資源の確認、さらに、唱歌に謳われていない地域資源の有無の確認を行った。その結果、唱歌に謳われた地域資源以外の提示・検討回答は無かった。第 2 回では、現代の地域資源の抽出を行った。その結果、付箋紙 112 枚が回収され、抜き出した固有名詞 151 を基に、前述した同様の手法に「地域資源活用促進法（中小企業庁。平成 19.5.11 施行／平成 27.7.15 改正）」の考え方等を加味し、地域資源として 99 を抽出した。